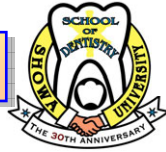




## 歯学部創設30周年



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えます。

### 年頭にあたり

歯学部長 宮崎 隆

新年おめでとうございます。皆様にとってこの一年が輝かしい年になりますように心からお祈り申し上げます。

今年は新カリキュラムがいよいよ完成年度を迎えます。皆様のご協力により、学部外臨地実習、PBL・チュートリアル、選択実習を始め多くの革新的なカリキュラムを遂行してきました。特にPBLについては、昨年度大きな進展がありました。1年次で新規に「PBL入門」を行い、3年次には「からだと病気」にPBLを導入しました。これで1年次から4年次まで継続してPBLを実施できるようになりました。この4月からは登院直前の5年生を対象に臨床予備実習として、「リスクマネジメント」に関するPBL実践を予定しています。



大学全体でもPBLに力をいれており、昨年は事業計画で旗の台校舎にPBL用の小部屋を整備しました。また、文科省の「医療人GP」の採択を受けて、平成19年度から富士吉田校舎で医・歯・薬・保健医療学部の4学部横断のPBLを実施する準備を進めています。

PBLのさらなる充実が歯学部の今年の最重要課題の一つです。今年はPBL委員会でこれまでの取り組みを総括するとともに、教育点検委員会でPBLの教育効果に関して点検を行う予定です。いわば、PBLの自己評価と外部評価です。

本学部はこれまで世界の歯学教育におけるPBLの指導的立場にあるオーストラリアのアデレード大学、および米国の南カリフォルニア大学と交流プログラムを締結して、教員と学生の交流を進めてきました。アジア諸国でも一流大学はこぞってPBLの推進をしていますが、この2月にアジアで最も実績のある香港大学にPBL委員会の中村委員長ほかと視察に出かけ、交流プログラムを締結する予定です。これにより本学部は、環太平洋のPBL歯学教育のネットワークの一員として、グローバルスタンダードの教育を推進していくことができます。

これまで高等教育改革推進経費の交付を受けてPBL環境の充実のために、自習用WEBサイトの整

備を行ってきましたが、年度内に旗の台校舎と富士吉田校舎および洗足校舎のネットワーク接続による教育環境の整備を行い、遠隔授業の可能性についても検討を進める予定です。歯学部の学生は3つのキャンパスで教育を受けていますが、遠隔授業やネットワークによる教育環境が実現できれば素晴らしいと思います。さらにアデレード、ロサンゼルス、香港とネットワークを活用した教育の連携・交流ができるようになればと夢は膨らみます。

歯学部は昨年11月に創設30周年の記念行事を執り行いました。亥年の本年は新たな飛躍の年にしたいと思います。教職員一丸となって学生教育、研究、診療の一層の充実を、そして社会貢献を目指して猪突猛進して頑張っていきましょう。

(飛行機より眺める富士山: 宮崎歯学部長撮影)



### 昭和歯学会特別例会 退職記念講演のおしらせ

昭和歯学会 山本 松男

I: 昭和大学歯学部歯科補綴学教室 川和 忠治教授

II: 昭和大学歯学部歯周病学教室 宮下 元教授

日時: 平成19年2月17日(土)

(I: 13:30~14:10, II: 14:20~15:00)

場所: 昭和大学歯科病院第一臨床講堂

### 行事予定

広報委員長 五十嵐 武

2月3日(土): D4 OSCE

2月10, 11日(土, 日): 歯科医師国家試験

2月17日(土): 昭和歯学会特別例会

2月24日(土): 大学院Ⅱ期入学試験

3月4日(日): 歯学部選抜Ⅱ期入学試験

3月16日(金): 卒業式・伝達式・謝恩会

3月28日(水): 歯科医師国家試験発表

3月29日(木): 大学院修了式

## 台北医科大学歯学部と交流プログラム 締結

歯学部長 宮崎 隆

去る平成18年12月15日に宮崎が台湾の台北市を訪問し、台北医科大学歯学部と本歯学部間の交流プログラムを締結しました。式典には台湾歯科矯正学会に参加中の本学歯科矯正学教室の中納講師を始め教室員、さらに台湾の昭和大学OB(留学経験者)が立ち会って下さいました。本学からはスクールネクタイと30周年記念ピンバッジ等を許学長、林学部長に贈呈しました。

台北医科大学は台北市の南部、高層ビルで観光スポットになっている台北101の近くにメインキャンパスがあります。本学同様に私立医系総合大学で、医学部、歯学部、薬学部、看護学部そして公衆衛生学部等を擁しています。3つの大きな附属病院があり総ベッド数は約3000床です。歯学部は1960年に創設され、その後機構改革をして、現在ではいわゆる歯科医師養成の歯学部、歯科衛生士養成の学部、大学院としてマスターコースの口腔科学研究所と生物材料研究所、さらにPh. Dコースとして口腔復健医学研究所があります。3つの大学付属病院に歯科診療室があります。

学部長の林 哲堂教授は東京医科歯科大学に留学経験のある補綴学の先生で、本学の山縣名誉教授とも面識があります。また、大学院院長の李 勝揚教授は、歯科理工学教室の玉置助教授とシカゴのノースウェスタン大学と一緒に机を並べて研究した仲間です。

台北医科大学は台湾の医系大学では現在最も活発に活動している大学であり、歯学部も国際交流に力を入れています。日本との間でも既に日本大学松戸歯学部、東京医科歯科大学、広島大学歯学部そして東京歯科大学等と実質的な交流をしています。

台湾では昭和大学に留学した先生が多数活躍していますが、彼らからも台北医科大学と本学の幅広い交流が期待されていました。

今後、教員および学生の実質的な交流プログラムを推進していきたいと考えています。



## 台湾・高雄医科大学口腔医学部、歯科病院を訪問

口腔衛生学教室 村田 尚道

平成18年11月22日に台湾の高雄医科大学口腔医学部の歯科医師、歯科衛生士の皆様(35名)が昭和大学歯科病院を訪問されました。

高雄医科大学は、台湾における「口腔保健と予防」を軸とした口腔衛生の発展に寄与できる歯科衛生士の人材育成のため、2002年より4年制の「口腔衛生学系」のコースをスタートさせています。今回、口腔衛生学教室 向井教授の紹介で、日本における障害者歯科医療や地域歯科保健活動についての研修を目的に訪日されました。歯科病院では、歯科衛生士業務や地域歯科保健活動について、各診療科の診療スタッフの説明を熱心に聴かれ、歯科医療における歯科衛生士業務の専門性の高さや業務の多さに驚かされていました。

後日、主任の黄教授よりお手紙を頂き、宮崎歯学部長や日山歯科衛生士長を始め、歯科病院のスタッフの皆様への感謝の言葉を頂きましたことを、この場を借りてご報告申し上げます。



## 昭和大学4学部同窓会新年会開催される

歯学部長 宮崎 隆

去る1月12日(金)に高輪プリンスホテルにて昭和大学4学部同窓会新年会が開催されました。今回は薬学部同窓会の山藤会長が幹事を務め、医学部同窓会の甲斐会長、歯学部同窓会の飯島会長、そして長津田キャンパス同窓会の小川会長をはじめ4学部の同窓会から約30名が出席し、小口理事長と4学部長を交えて懇親を深めました。富士吉田校舎からの雪をかぶった雄大な富士山の写真を表紙にした参加者名簿が配布され、参加者全員で校歌を斉唱し、あっという間の2時間でした。歯学部同窓会からは飯島会長の他に、大多和、大西、浜田、齋藤、大原、徳岡、関矢の諸先生方が出席しました。



## 図書館オリエンテーション開催される

PBL委員会 馬谷原 光織・伊佐津 克彦

図書館オリエンテーションが11月30日(木)9時～14時まで歯学部2年生を対象に行われました。このオリエンテーションは、2年生「口腔の生態系のPBL」直前に図書や文献を自分で検索する方法を理解してもらうために、昨年より開催されています。

オリエンテーションは、図書館長のもと旗の台図書館ならびに洗足図書室の司書6名にご指導いただきました。旗の台図書館では図書館館内案内・書架の利用法・貸し出し返却、インターネットを利用した文献検索や図書検索を2号館第6講義室で行って頂きました。本年度は昨年と比較して1.5倍の時間枠を利用し、PBLの説明を含めた内容としました。事後アンケート結果では図書館ツアーと文献検索について好意的な感想が得られました。図書館司書からの意見として、時間不足など去年同様の意見は減少したものの、時間配分や学生指導順序など一層の学習向上を目指す意見や、医・薬学部の2年生も指導すべきなど今後の発展を目指す意見も出されました。オリエンテーション後の2年生の図書館利用率は増加して

しており、去年年度の集計では図書貸し出し件数が3倍増となりました。学生が自分で学ぶ力を身につけるために、学ぶための「道具の使い方」を指導する重要性を感じています。

ご指導いただいた図書館関係者の皆様に感謝し、来年度の指導にも是非お力添えいただけますようお願いいたします。



## 体の病気PBLを体験して

歯学部3年 遠藤 由美子

「からだの病気」の授業でPBLを行いました。今回のPBLは今までとは違い自分たちの持っている知識の乏しさを実感させられたようでした。与えられた議題について「1. 自らの知識で考え」「2. 学生で討論し」「3. 自己学習しそれを発表する」というPBLの流れの中で、今回は自分の知識があまりにも少なく、最初の段階でつまずくことが多かったと思います。しかしその分、自己学習と発表のときに学習することが多く、有意義なものになったと思います。また、ファシリテータに臨床の先生が多く、臨床の話を変えてヒントを与えて導いていただいたことも今までのPBLとは違い、新鮮なものでした。

PBLの授業形式は学生にとって、とても良いと思

います。普通の講義はどうしても受け身になりがちですが、PBLは学生同士で話し合い、意見を交換し、そして討論する、という学生自身が参加できる授業形式だからです。またPBLの中で学生同士討論することで、広い視野を持つこと、視点を変えて見るということ、を学ぶことができたと思います。

## 体の病気PBLを体験して

歯学部3年 飯村 紘子

今回のPBLは2回という短い期間でしたが、「祖母の悩み」という現在の高齢化社会において日常に起こりうるかもしれない身近な状況がテーマになっていました。「からだの病気」という講義名のとおり、主なテーマが高齢者の口腔乾燥というとても広い範囲であったので、話し合っているときの話題が全身的な話に広がり、収集がつかなくなったとき、ファシリテータがとても良い助言を与えてくれました。

1つのグループ6、7人の学生に一人の先生がファシリテータとしてついていて、グループの話し合い、情報収集の助言などを行い円滑に学習ができるような環境になっていると思います。疑問に感じることを自分達で提起し、自分で調べまた互いに調べてきた情報を共有することで、より理解を深められたと感じました。

また、毎時間ファシリテータから個々にフィードバックがあり、自分の表現、学習態度にアドバイスなどがあるため、客観的に捉えることができ今後の学習にも役に立つと感じました。

## 体の病気PBLを体験して

歯学部3年 初鹿 香織

PBLは自発的に知らないことを知ろうとする意欲を発揮させるのに有効であると思います。そして自己の知識を再認識できる良い機会だと思います。与えられた資料をもとにグループ内で話し合ううちに沢山の疑問が湧いてきます。そして、そこで出た疑問を調べ再確認することで確実な知識として身につけることができます。多くの疑問が出たときはグループ内で分担し、調べてきたものを発表します。皆に分かりやすいように色々な資料にあたり、全てを説明できるように分からないところをなくしておく努力をすることでさらに知識が身につきます。そればかりでなく、私達が個人で調べ上げた資料に対して、ファシリテータの先生がひとりひとりにコメントしてくださったのは励みになりました。

からだの病気でPBLをやったことで、全身疾患が関わるのではないか、薬の副作用ではないか、唾液腺だけの問題なのか、というように口腔だけではなく、広い視野で病状を捉えて学習することができました。そのため今回のPBLはより臨床の雰囲気に近いものだったと思いました。



## 昭和大学歯学部同窓会学術委員会からのお知らせ

歯学部同窓会学術委員会広報担当 野中 直子

昭和大学歯学部同窓会学術委員会では、ポストグラデュエートセミナーを年に数回開催しております。今回より「歯学部だより」の紙面をお借りして、セミナーのお知らせを掲載させていただくことになりました。基礎から臨床、また明日の診療からすぐに役に立つ講演など学術委員会では充実したセミナーを企画しております。同窓生以外の方の受講も可能ですので、是非ご参加ください。

- ◆第3回：平成19年2月25日(日)午後1時～4時
- ◆演題名：開業医のための・矯正から始まる自由診療ーコーンビームCTから透明矯正装置(インビザライン)までー
- ◆講師：榎 宏太郎先生  
(昭和大学歯学部歯科矯正学教室教授)
- ◆会場：昭和大学歯科病院6階(第二臨床講堂)
  
- ◆第4回：平成19年3月18日(日)午後1時～4時半
- ◆演題名：“むし歯予防”はイバラの道？
- ◆講師：今井 美行先生  
(今井歯科クリニック院長, 秩父市開業)
- ◆会場：昭和大学歯科病院6階(第二臨床講堂)
  
- ◆受講料：5,000円(当日6,000円)  
第3回は2月16日(金)、第4回は3月9日(金)が締め切りとなります。  
お問い合わせは、昭和大学歯学部同窓会事務局までお願いいたします。  
TEL:03(3784)8077  
FAX:03(3784)4029

## 診療統計 (平成18年12月分)

医事課課長 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月1日 平均	前年1日 平均
外来患者	17,495	760.7	741.3	832.2
入院患者	482	15.5	15.4	11.5

## 訃報

広報委員 野中 直子

昭和大学歯学部口腔組織学教室教授 佐々木 崇寿先生は、病氣療養中のところ平成19年1月15日ご逝去されました。ご逝去を悼み、佐々木先生の生前のご功績をたたえ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

なお、昭和大学歯学部葬を本学上條講堂で2月21日(水)に執り行う予定で準備を進めております。

## 標準模擬患者(SP)講習会

SP養成検討委員会委員 天野 均

SP養成検討委員会主催の第6回SP講習会が12月5, 12, 14日の3日間のコースで行われました。今回は薬学部OSCEのためのSP養成も兼ねた関係から薬学部SPにも参加していただき、学部内の研究補助員、職員、大学院生、合わせて9名が参加しました。初日はベテランSP(今村・上野さん)の模範演技を見学しコミュニケーションの基礎学習、2日目にシナリオ作成とビデオ撮影下での演技指導および撮影したビデオによる反省会、3日目は臨床研修医の協力による模擬演技とSP間の評価の標準化を行いました。最終日には、外国出張に行かれる直前の多忙な宮崎学部長から全員に修了証が手渡されました。大学院生は医療面接PBLのSP役として、他の方は2月3日の歯学部OSCEにSPとしてデビューしていただく予定です。

SPは学生の態度・技能領域を教育する資源として有効ですので、多数のSPが必要となります。そのため、一人でも多くの方にSPとしてご協力していただけますようお願い申し上げます。次(写真は宮崎学部長から修了証をいただいた昭和大学教務部 歯学部教務課の山本玲美さん)



## 学会賞受賞・表彰・昇任

広報委員長 五十嵐 武

**昇任** 顎口腔疾患制御外科学教室

吉澤 泰昌先生が助手に昇任

## 認定医

広報委員長 五十嵐 武

歯科麻酔学会認定医 取得

長澤 郁子先生(歯科麻酔科)

加々美 智先生(藤が丘病院麻酔科出向中)

小原 明香先生(歯科麻酔科)

## 編集後記

広報委員(口腔解剖学教室) 野中 直子

2007年も1か月が過ぎました。言い古された言葉ですが、加齢とともに「光陰矢の如し」がさらに加速されていきます。うっかりしていると今年度どころか、1年さえもすぐに終わりそうな気がしますので、身を引き締めて頑張っていきたいと思っております。

年の初めのお忙しい時に、原稿を執筆していただいた先生方に感謝いたします。

今年も皆様にとりましてさらに良い年となりますようにお祈りしております。